

- ④学生企画学術会議(写真2)～真のリーダー養成を目的。企画から運営まで全て学生が担当し、成功しました。
- ⑤プロトタイプ機の試作と展示会出展～研究をわかりやすく発信し共同研究先を見い出すために積極的に奨励。自立研究者としての自覚が芽生えました(写真3:機能性白色LED照明～右のシェアのように蛍光灯では見えない異物を検知。多数の問合せや商談)。



(写真1)



(写真2)

(3) 国際的な人材育成の取組;

- ①国際会議発表や海外武者修行の奨励(旅費補助)～関連分野の著名な研究者に自ら連絡をとり、押しかけ講演や討論、研究室見学を奨励。コミュニケーション能力が向上しました。
- ②中・短期留学、
- ③海外研究者招へいセミナー、
- ④英語能力向上講習会など。



(写真3:プロトタイプ機の試作と展示会出展)

3.育った「センシングアーキテクト」

世界的視野に立った考え方ができる人材や企業の要請に応え得る人材など、目標とした人材が育ってきました。例えば、

- ①毎年約9割の学生が海外発表を経験、
- ②海外有名大学で研究員として雇用・活躍中、
- ③IEEEなどの世界的著名論文誌で優秀論文賞を受賞、
- ④発表内容の一部が著名論文誌の表紙に掲載、
- ⑤企業へのキャリアパスを確立、
- ⑥企業との共同研究の獲得、

など。



【GCOE開始以来の就職先】

4.GCOEシンポジウム東京2012

「グローバルリーダーを目指した人材育成」をテーマに、①企業トップ4名を招き本音の討論や講演、②「センシングアーキテクト」育成報告、③「センシングアーキテクト」OB、現役(計8名)の研究発表を介した自己紹介などを行い大変盛況でした(申込450名超;全国紙に掲載)。



GCOEシンポジウム2012

5.GCOE活動をまとめた書籍(注)

3つのフロンティア形成活動と将来展開について、イラストと写真を多用した雑誌風の分かりやすくビジュアルな書籍として作成しました(右下は頁抜粋:GCOEに参画した学生と教員職員)。

今後の人材育成とグローバル化の活動は、21世紀COEとGCOEの成果をもとに融合研究を戦略的かつ国際的に展開する「エレクトロニクス先端融合研究所」と「テラーメイド・バトンゾーン教育プログラム」を中核にして全学的規模で開始しています。

(注)書店で販売;日経BPムック「変革する大学」シリーズEX/国立大学法人豊橋技術科学大学01/「グローバルCOE拠点インテリジェントセンシングのフロンティア」/発行:日経BPコンサルティング(2012年4月1日発行)

